

株式会社ファインシンター (5994)

2027年3月期 第2四半期 決算説明会

2026年10月30日



①2027年3月期第2四半期の業績概況

②2027年3月期下期の見通し

(ご参考) 中期経営計画vision2030 (抜粋)



決算概要

[単位：百万円]

		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期			
		第 2 四半期	通期	第 2 四半期	通期	第 2 四半期		通期	
							対前年比	当初予想 <small>(2026年 5月14日開示)</small>	修正予想 <small>(2026年10月28日開示)</small>
売上高		20,855	42,720	23,039	46,206	23,119	0.3%	44,500	46,000
	自動車焼結事業	18,627	38,458	20,950	41,895	21,158	1.0%	40,790	42,240
	鉄道焼結事業	1,332	2,390	1,187	2,381	956	-19.5%	1,930	1,840
	油圧機器製品事業	893	1,866	895	1,920	998	11.5%	1,780	1,920
売上総利益		2,295	5,752	3,825	6,549	2,875	-24.8%	—	—
売上総利益率		11.0%	13.5%	16.6%	14.2%	12.4%	—	—	—
営業利益		-191	683	1,202	1,195	241	-79.9%	1,200	800
営業利益率		-0.9%	1.6%	5.2%	2.6%	1.0%	—	2.7%	1.7%
経常利益		-316	472	1,003	754	26	-97.4%	800	360
経常利益率		-1.5%	1.1%	4.4%	1.6%	0.1%	—	1.8%	0.8%
当期純利益		-1,159	-206	925	-2,414	324	-64.9%	500	140
1 株あたり利益		-48.37円		-564.13円				116.84円	32.72円
為替レート（米ドル）		152円		151円		160円	—	150円	158円
配当	中間	10.0円	10.0円	10.0円	15.0円	10.0円		15.0円	15.0円
	年間	20.0円		25.0円				25.0円	25.0円
配当性向		—		—				21.4%	76.4%

想定を上回る原材料・エネルギー単価の上昇分の価格転嫁が一部翌期になることに加えて、中期経営計画に基づく米国子会社の事業停止に向けた費用の増加により通期業績予想を修正。
グローバル拠点の再編は、収益体質強化に向けた中期経営計画の重要施策として、引き続き計画どおり推進中。

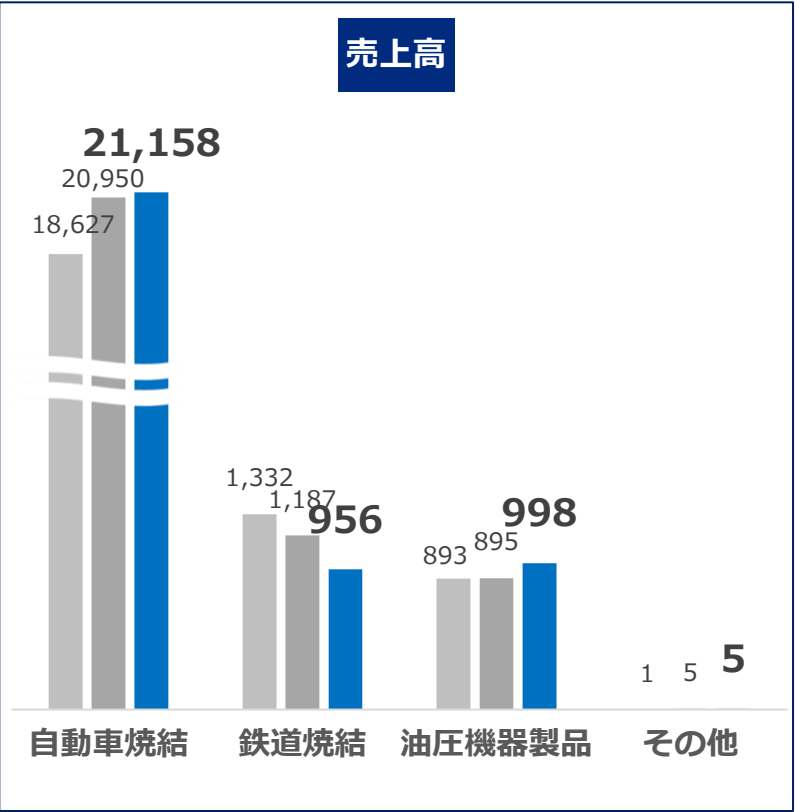
連結業績の概要

[単位：百万円]

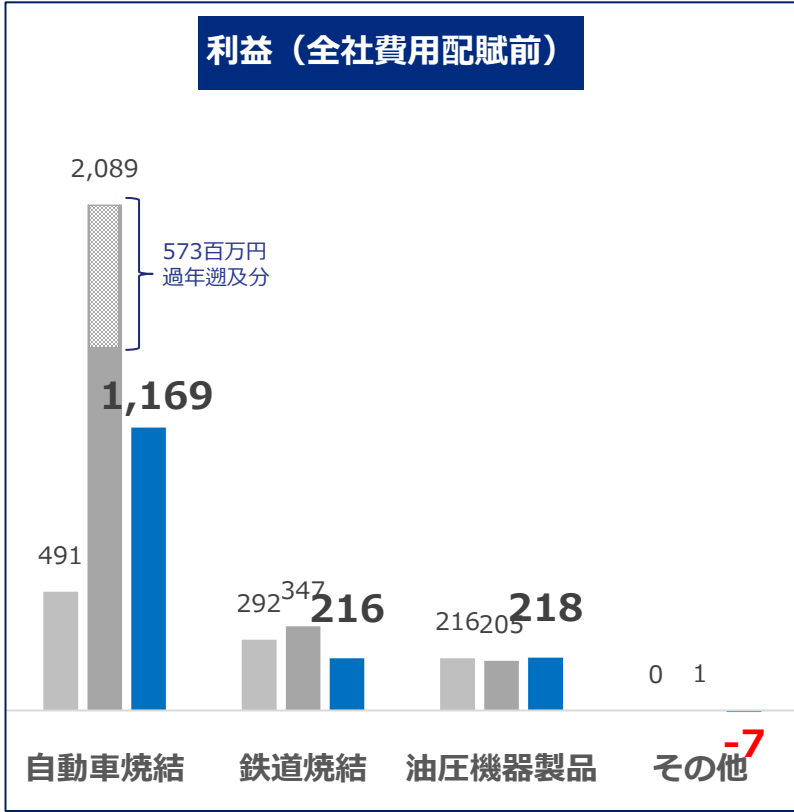
■ 2025年3月期第2四半期 ■ 2026年3月期第2四半期 ■ 2027年3月期第2四半期

セグメント別

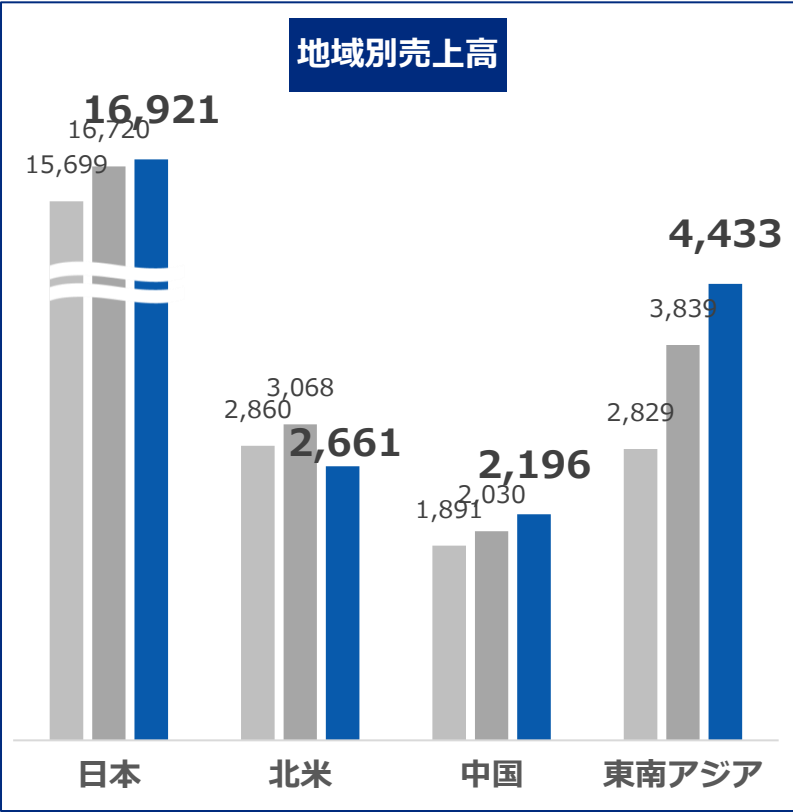
売上高



利益（全社費用配賦前）



地域別売上高



自動車焼結事業は、材料・エネルギー単価の上昇分を上期に転換できなかったことから前期に比べて大きく減益。

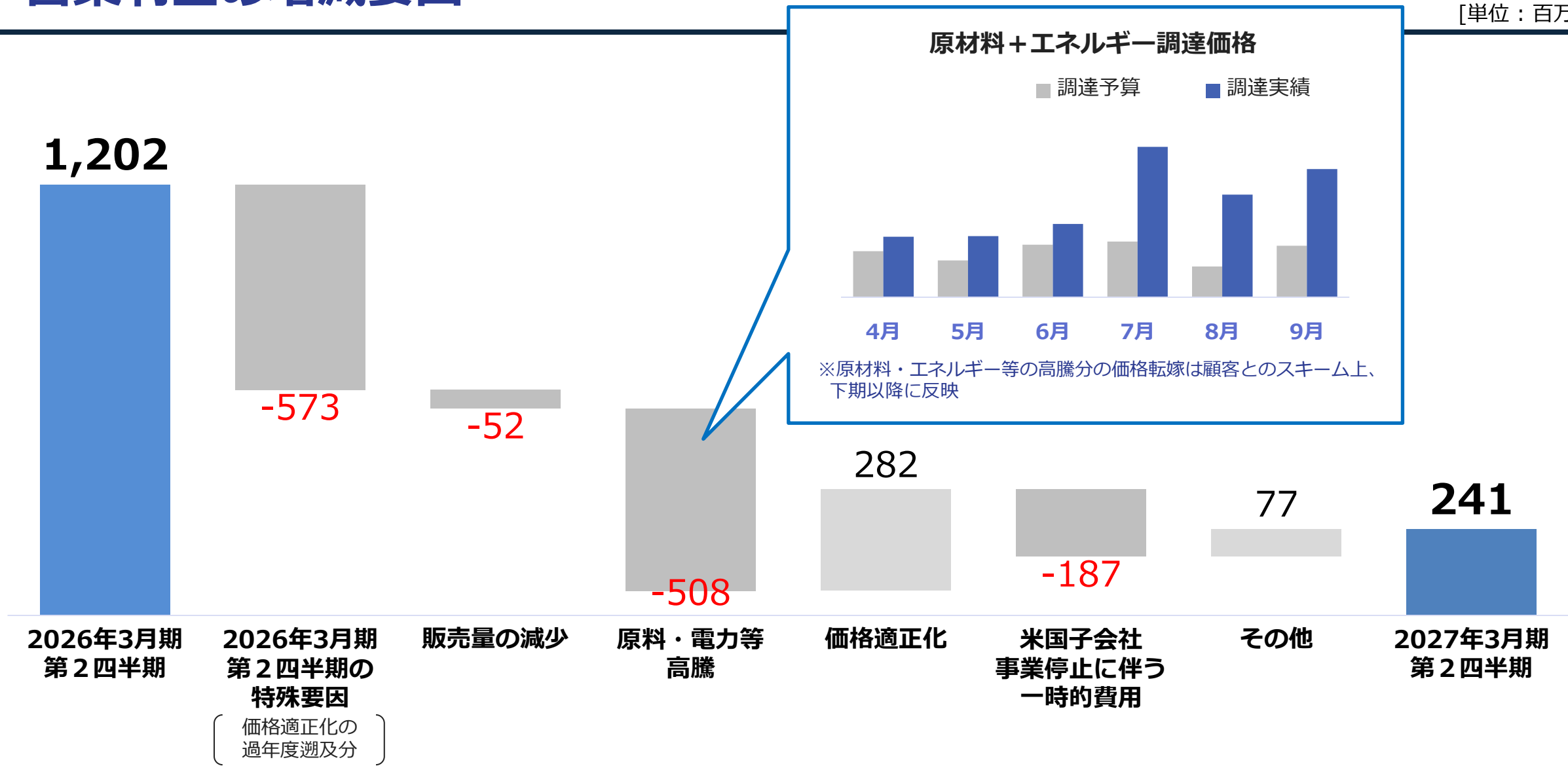
鉄道焼結事業は、前年に発生した新幹線用ブレーキライニングにおける特需の反動により減収減益。

油圧機器製品事業は北米向けの販売が堅調に推移。また、医療機器用途製品において原材料価格の高騰を販売価格へ反映できたことで増収増益。

北米は一部製品生産打切り、中国は市場影響等により為替の影響を除くと減収。
東南アジア・日本の売上増、円安の影響が大きく全体では増収。

営業利益の増減要因

[単位：百万円]



原料・エネルギー等の高騰に対する価格適正化に取り組んだものの、価格適正化の一部が第3四半期以降となることに加え、米国子会社の事業停止に向けた準備に伴う一時的費用の発生及び、前期は過年度遡及一時金もあり減益。

資産の状況

[単位：百万円]

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 第 2 四半期
流動資産	21,362	22,404	21,384
現金及び預金	4,420	5,851	5,160
受取手形及び売掛金	7,902	7,908	7,881
たな卸資産	6,904	6,563	6,471
固定資産	26,472	23,973	23,665
有形固定資産	22,928	20,736	20,239
資産合計	47,835	46,378	45,049
流動負債	21,421	21,971	19,395
固定負債	9,419	9,354	10,986
負債合計	30,841	31,326	30,381
有利子負債	18,264	17,948	17,909
純資産	16,993	15,051	14,667
負債・資本合計	47,835	46,378	45,049
自己資本比率	29.5%	30.9%	31.1%

現金及び預金は適正レベルを維持、継続的な在庫の適正化に努めた結果、たな卸資産回転率は改善に向かう。
今後も資産効率を意識した経営を進め、財務体質強化に取り組む。

キャッシュフローの状況

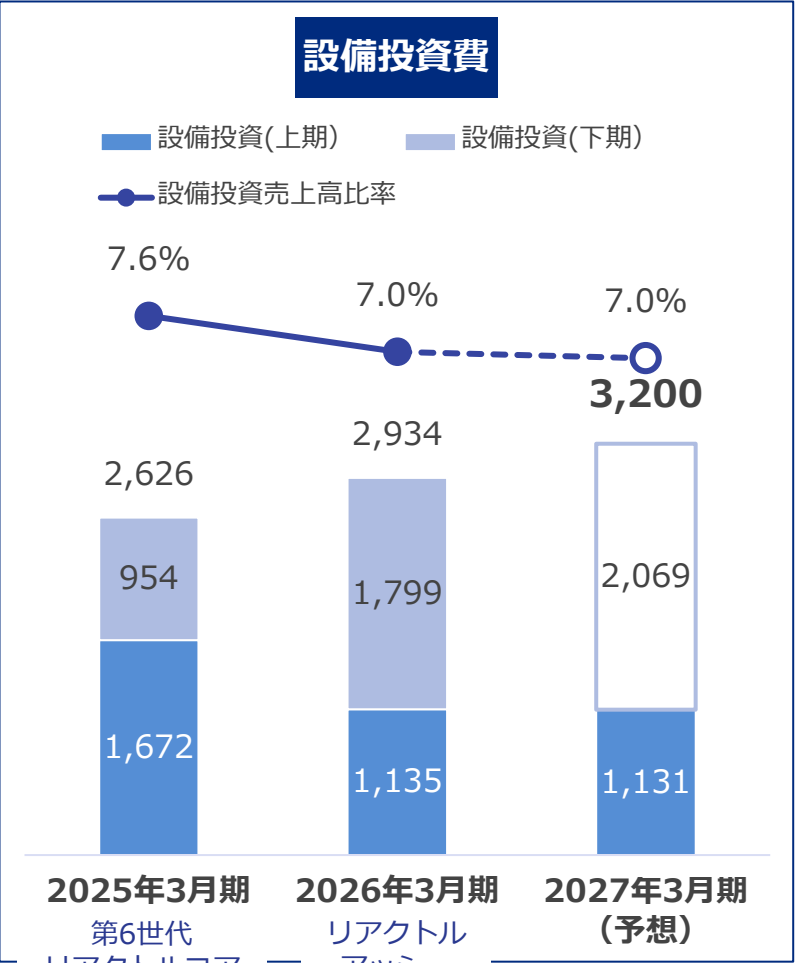
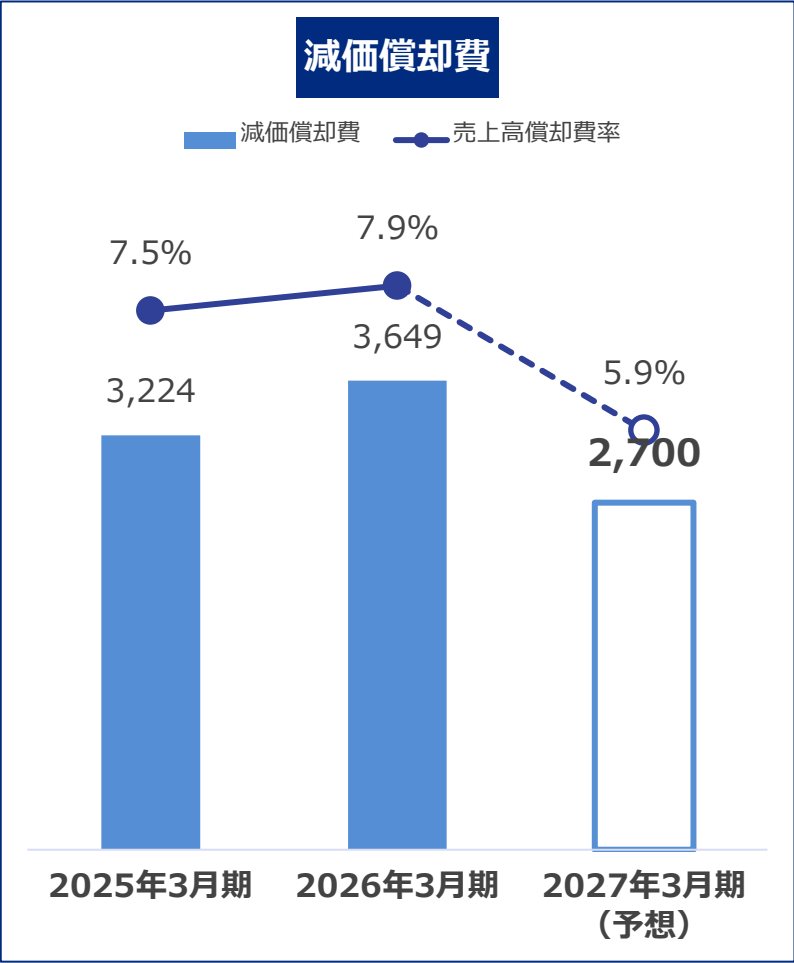
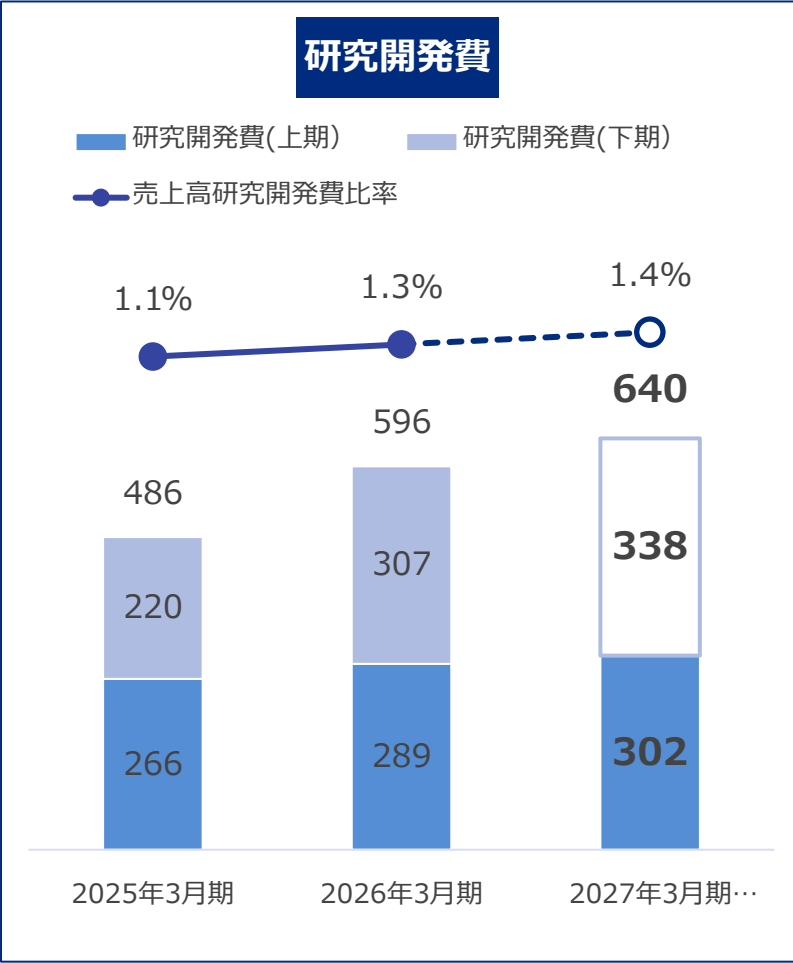
[単位：百万円]

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期
預金及び預金同等物の期首残高	3,865	4,119	5,537
営業活動によるCF	1,322	2,782	1,246
投資活動によるCF	-1,199	-1,332	-1,408
財務活動によるCF	662	-410	-516
現金及び預金同等物の期末残高	4,624	5,195	4,840
減価償却費	1,672	1,575	1,337
設備投資額	1,672	1,135	1,131
設備投資の内容	国内子会社 ハイブリット用インバーター部品 （リアクトル）用設備の増設 …53百万円	国内 ハイブリット用インバーター部品 （リアクトル）用設備の増設 …48百万円	国内 システム更新 …163百万円 リアクトルアッシー …56百万円
	国内 未来ファクトリー設備投資 …94百万円	国内 ネットワークの老朽化更新 …81百万円	

将来成長に向けた投資を継続しつつ、投資効率を重視した経営に取り組む。

設備投資・減価償却費・研究開発費

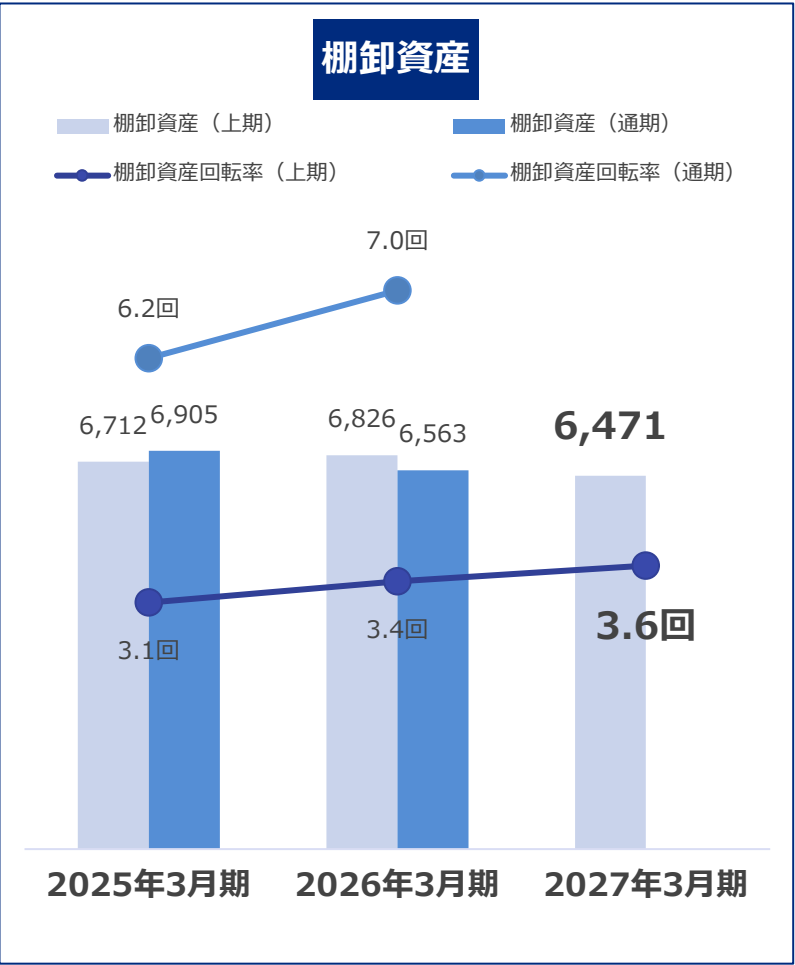
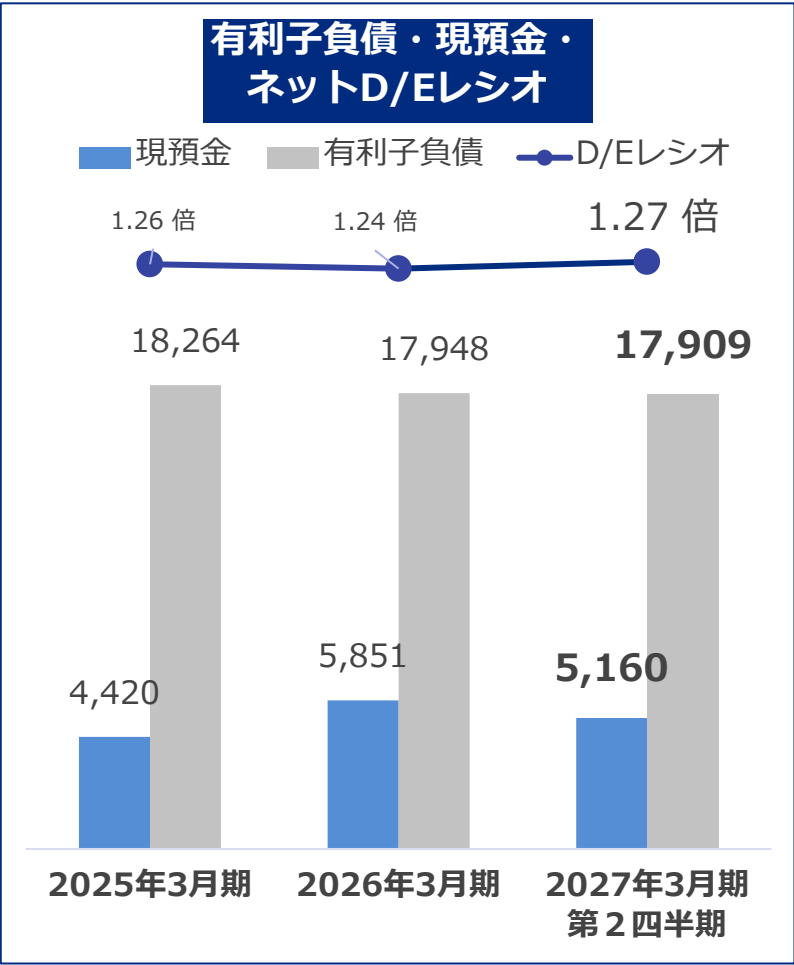
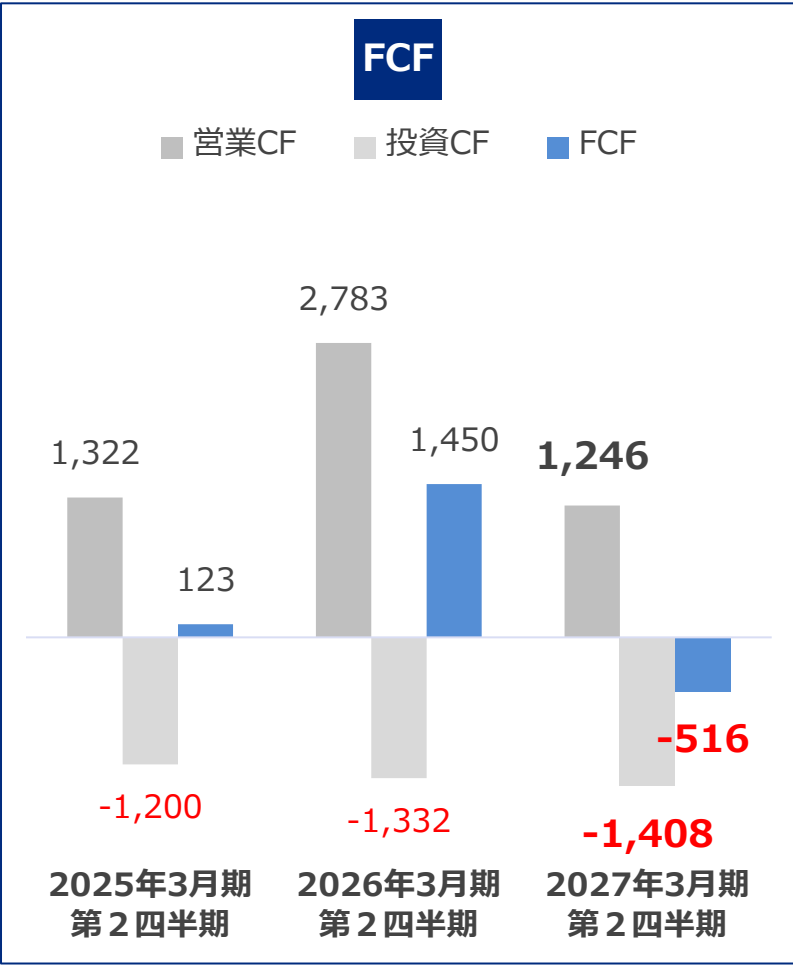
[単位：百万円]



基盤収益力強化の一環としてグローバル拠点の再編、ポートフォリオ変革に向けたハイブリッド用インバータ部品（次世代品・アッシー品）の生産準備等に効率的・効果的に投入予定。

棚卸資産・

[単位：百万円]



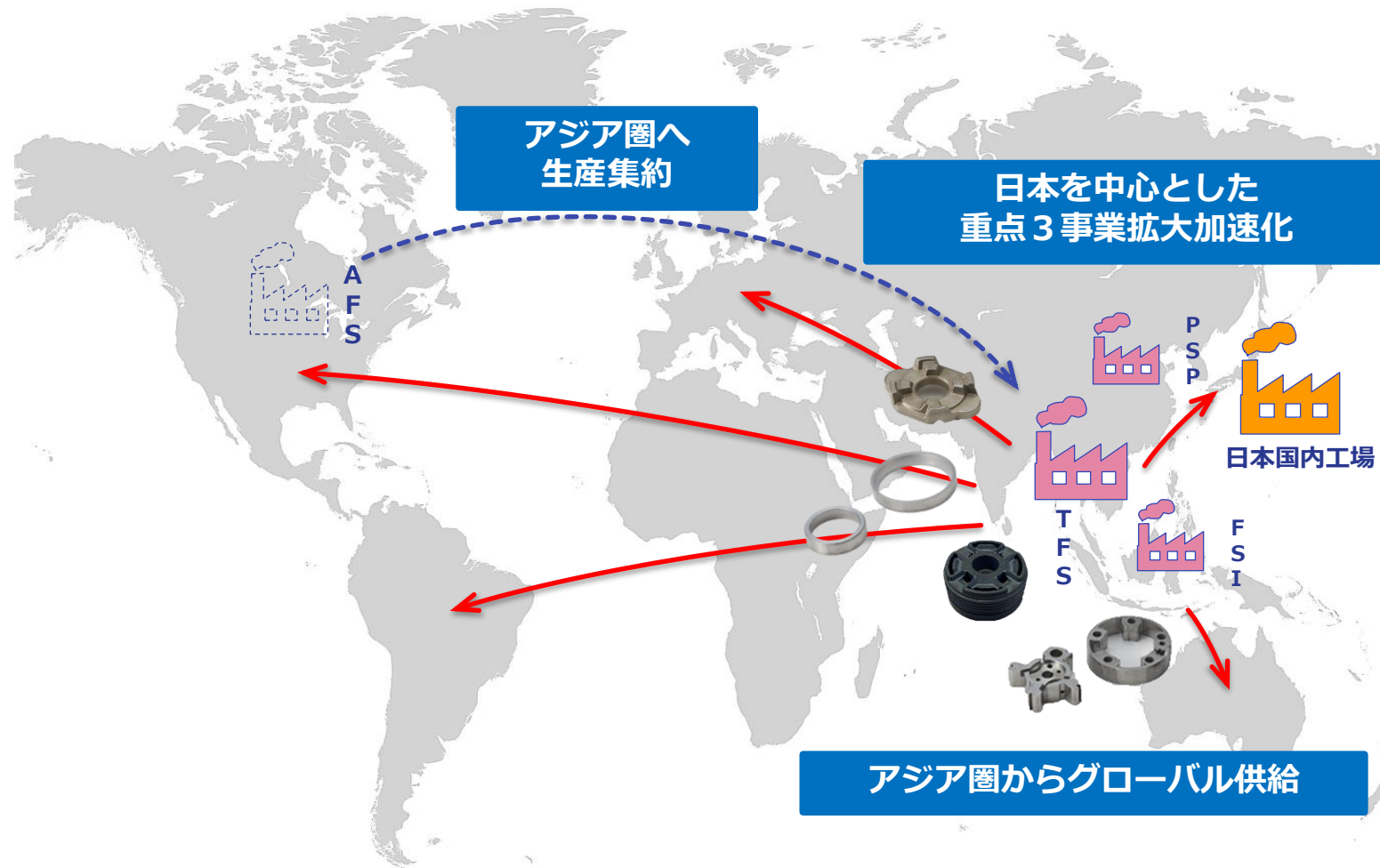
棚卸資産の適正化と有利子負債の削減により、資本効率の改善が若干ではあるが、着実に進展。

トピックス①



グローバル
拠点の
さらなる強化

アメリカンファインシンター
生産体制最適化に向け、米国工場からの生産移管を開始
※アメリカンファインシンターでの生産は28年3月に終了予定



トピックス②



中長期目標の
共有

中期経営計画実現に向けた全グループ浸透活動を展開

経営トップ自らが国内外の各拠点を訪問し、中期経営計画の浸透活動を推進。
グループ一体での変革意識の醸成と実行力の強化を図り、中計達成に向けた行動変革を促進いたしました。



従業員の健康と挑
戦を支えるウェル
ネス活動

健康経営を基盤としたウェルネス推進による健康で活力ある職場づくり

従業員の心身の健康を企業成長の重要な基盤と捉え、健康経営（ウェルネス経営）を推進。ウェルネスリーダーによる啓発活動や運動イベントの運営、運動・食事改善の強化月間、敷地内全面禁煙および禁煙支援を実施し、一人ひとりが健康でいきいきと働ける職場環境の整備を進めています。



＜公認心理士によるラインケア研修＞

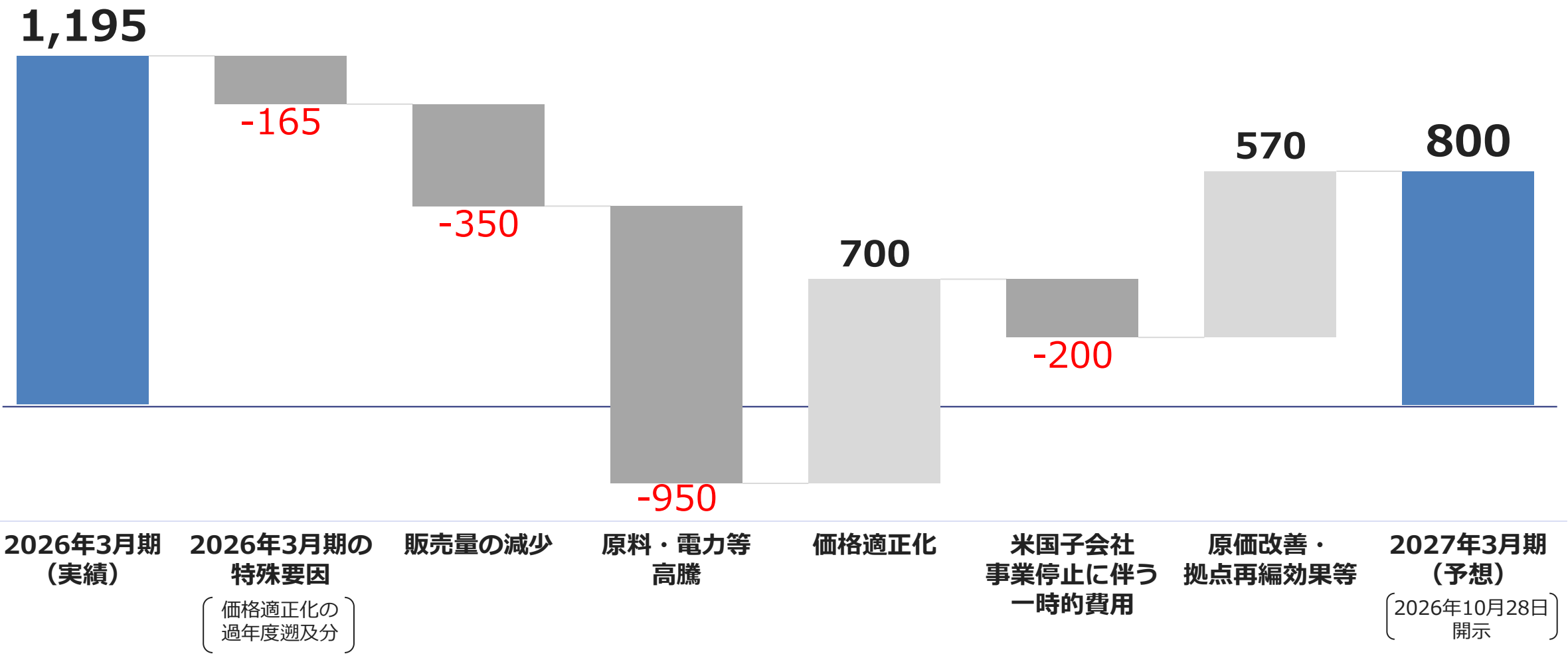
① 2027年3月期第2四半期の業績概況

② 2027年3月期下期の見通し

(ご参考) 中期経営計画vision2030 (抜粋)

営業利益予想の増減分析（連結）

[単位：百万円]

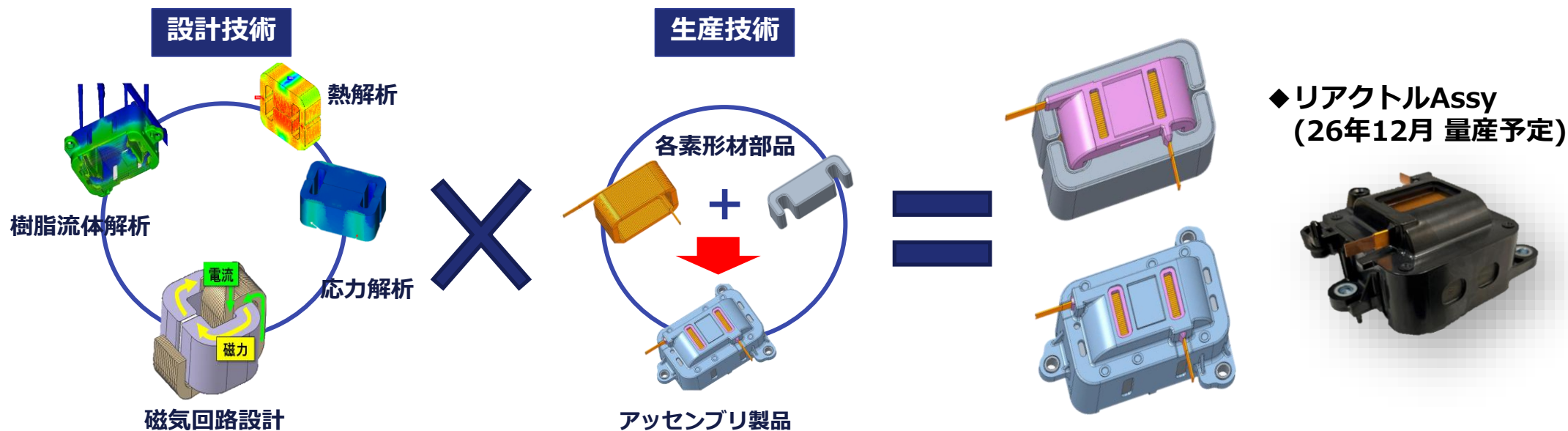


原材料・エネルギー等の高騰による価格適正化に取り組むものの、価格適正化の一部が翌期以降となることに加え、販売量の減少、米国子会社の事業停止に向けた準備に伴う一時的費用の発生もあり減益。

下期の取り組み事項①

リアクトルAssyの生産開始

リアクトル製品の設計から評価技術を一貫して提供できる体制を構築
圧粉コア単体生産からコイル巻線・樹脂モールド工程を内製化



- 本社工場にリアクトルAssy用のラインの新設、試作開始（2025年7月）
- リアクトルAssy量産開始（2026年12月予定）
- 2029年3月期下期から業績への貢献が本格化する見込み



成長領域の
取り組み

下期の取り組み事項②

[単位：百万円]



収益性向上

グローバル拠点の寄せ停め（生産再配置）活動 ➡ 固定費の削減

米国拠点閉鎖

米国から日本・タイへの生産移管による寄せ停め活動の確実な実行

国内拠点間の寄せ停め

設備の配置換え、生産の集約による生産効率の向上

価格適正化

原材料・エネルギー単価上昇分の適正な価格転嫁の推進により、上期未達分の回収に取り組む
少量不採算品の価格是正

経費削減活動

筋肉質な収益体質へ転換を推進するため、間接部門を含めた全社的なムダの排除と業務慣行の見直しを推進

人への投資

人材育成：将来の成長と収益力強化を支える人材育成を推進するため、管理職及び管理職候補社の教育、専門人材育成を強化

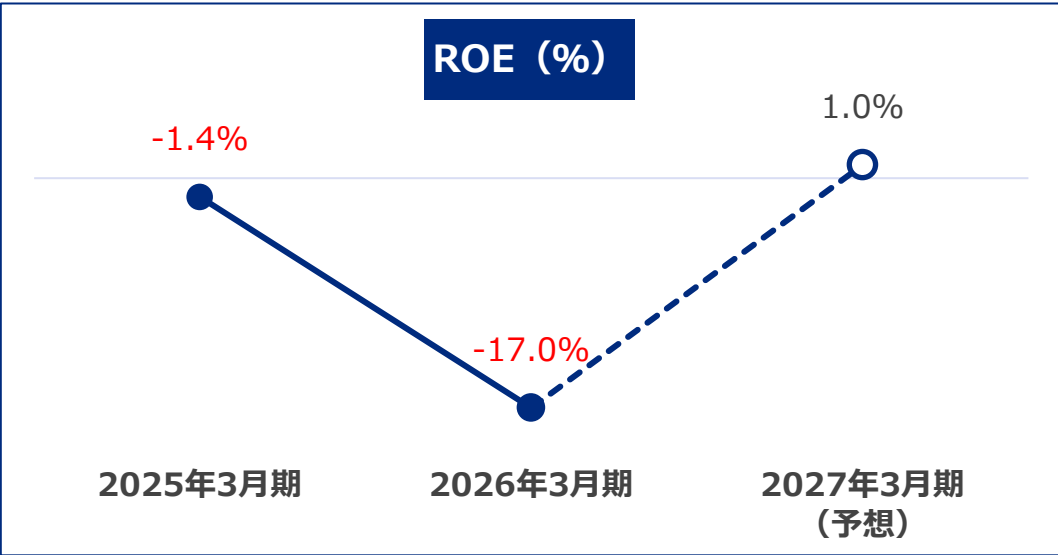
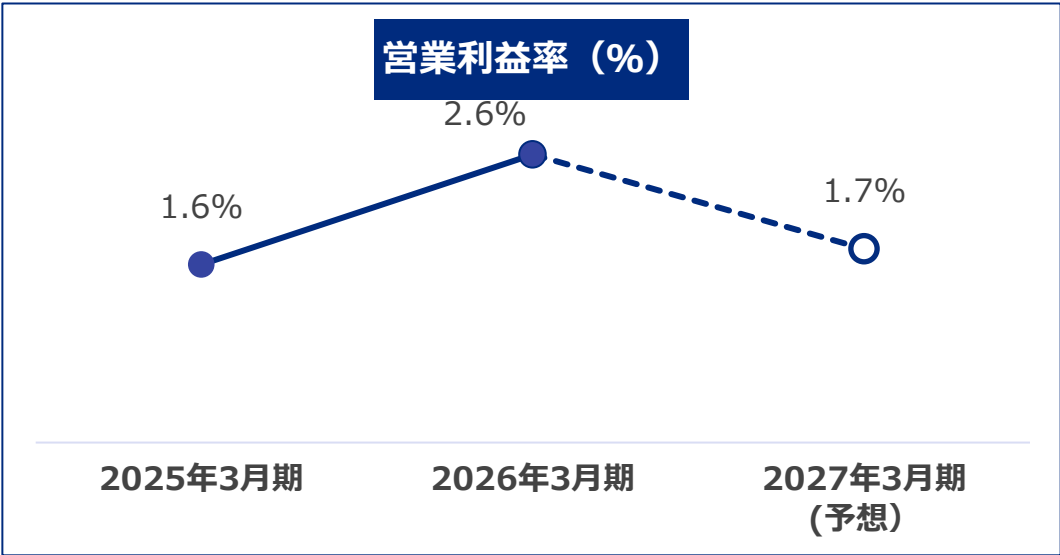
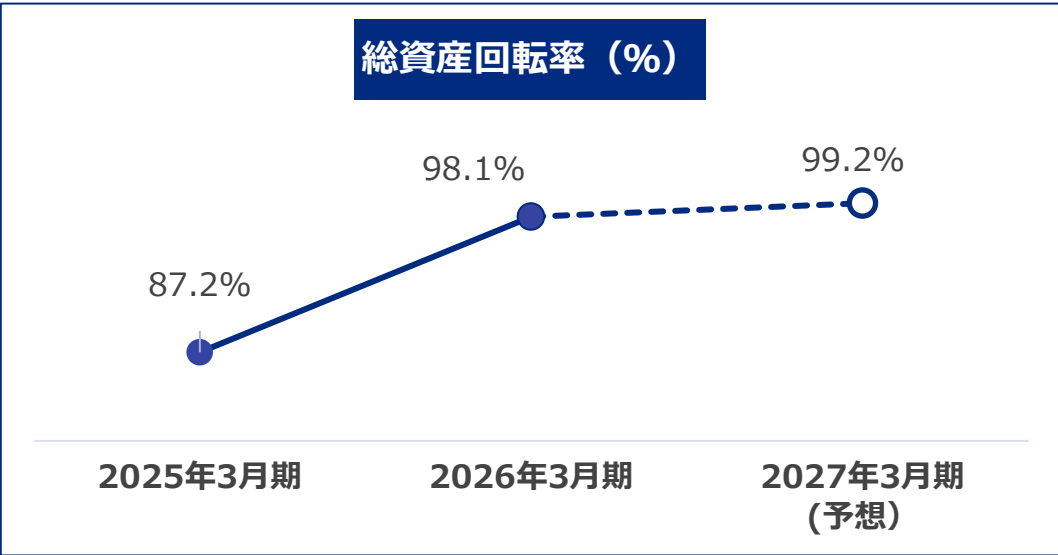
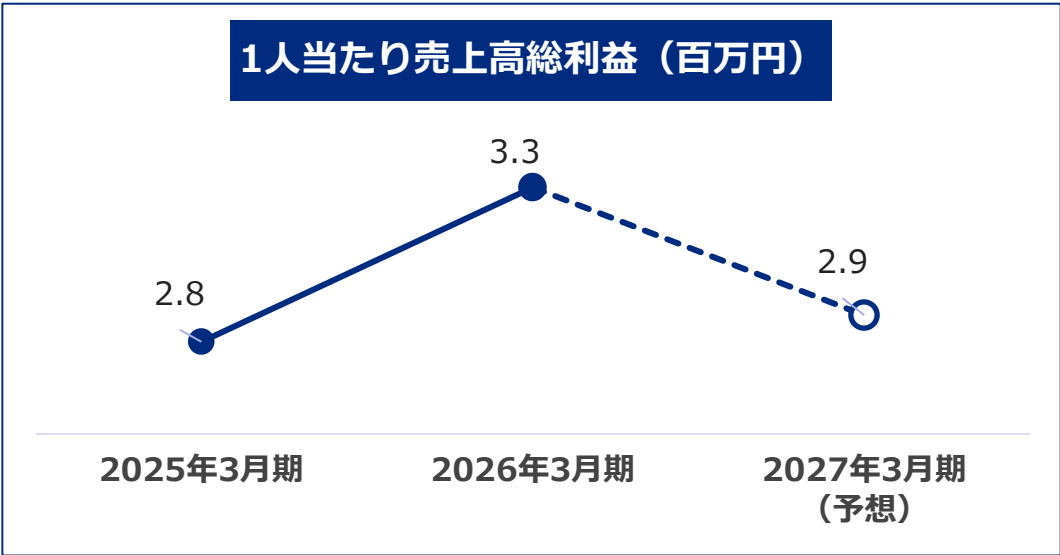
職場環境改善：従業員が安心して長く働ける職場環境を整備し、エンゲージメント向上と人材定着を図る



子会社のインドネシアでは、「見晴らしのいい職場を」として製造現場の改善を実施しております。

主要財務指標

[単位：百万円]



① 2027年3月期第2四半期の業績概況

② 2027年3月期下期の見通し

(ご参考) 中期経営計画vision2030 (抜粋)

中期経営計画の位置づけとテーマ

前中期経営計画
(2022年3月期～2026年3月期)

新中期経営計画
(2027年3月期～2031年3月期)
Vision2030

次期中期経営計画
(2032年3月期～2036年3月期)

長期ビジョン

構造改革 の実行

次世代に向けた新
商品の開発・生
産・販売体制の構
築開始

未来Factoryの
春日井工場展開

事業構造変革の
開始

変革を遂げる

構造 × 人

ポートフォリオ変革
の継続

収益基盤の
強化

人的資本変革（未来志向へシフト）

2027年3月期

2031年3月期

持続的成長企業 の実現

成長領域の中核事業化

強固な事業基盤

2032年3月期

2036年3月期



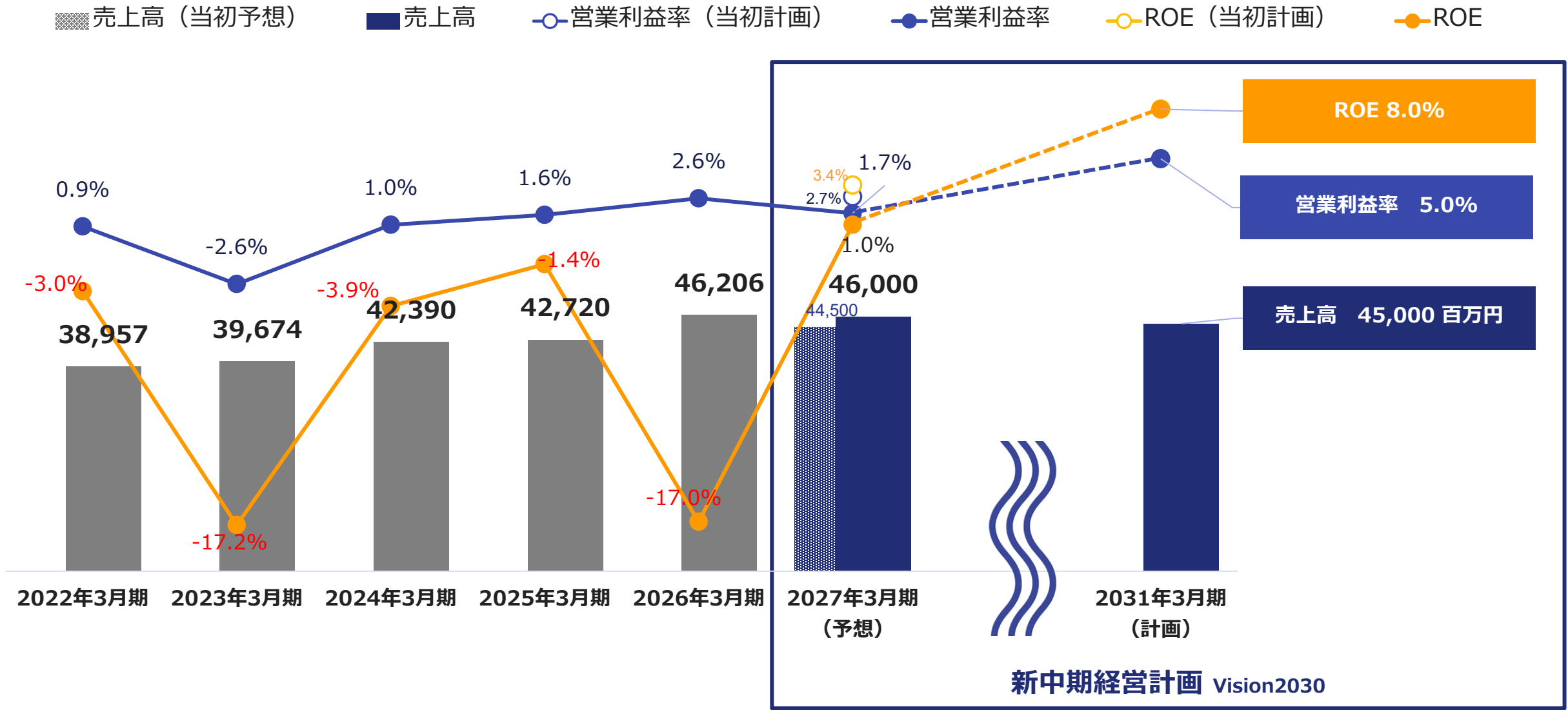
**100年企業を
目指して
みんなが喜ぶ会社に**

粉末テクノロジーの進化と応用で
新たな価値を無限に創造し、
モビリティ社会の未来を支え、
人々の幸せに貢献し続ける企業へ

2026年3月期

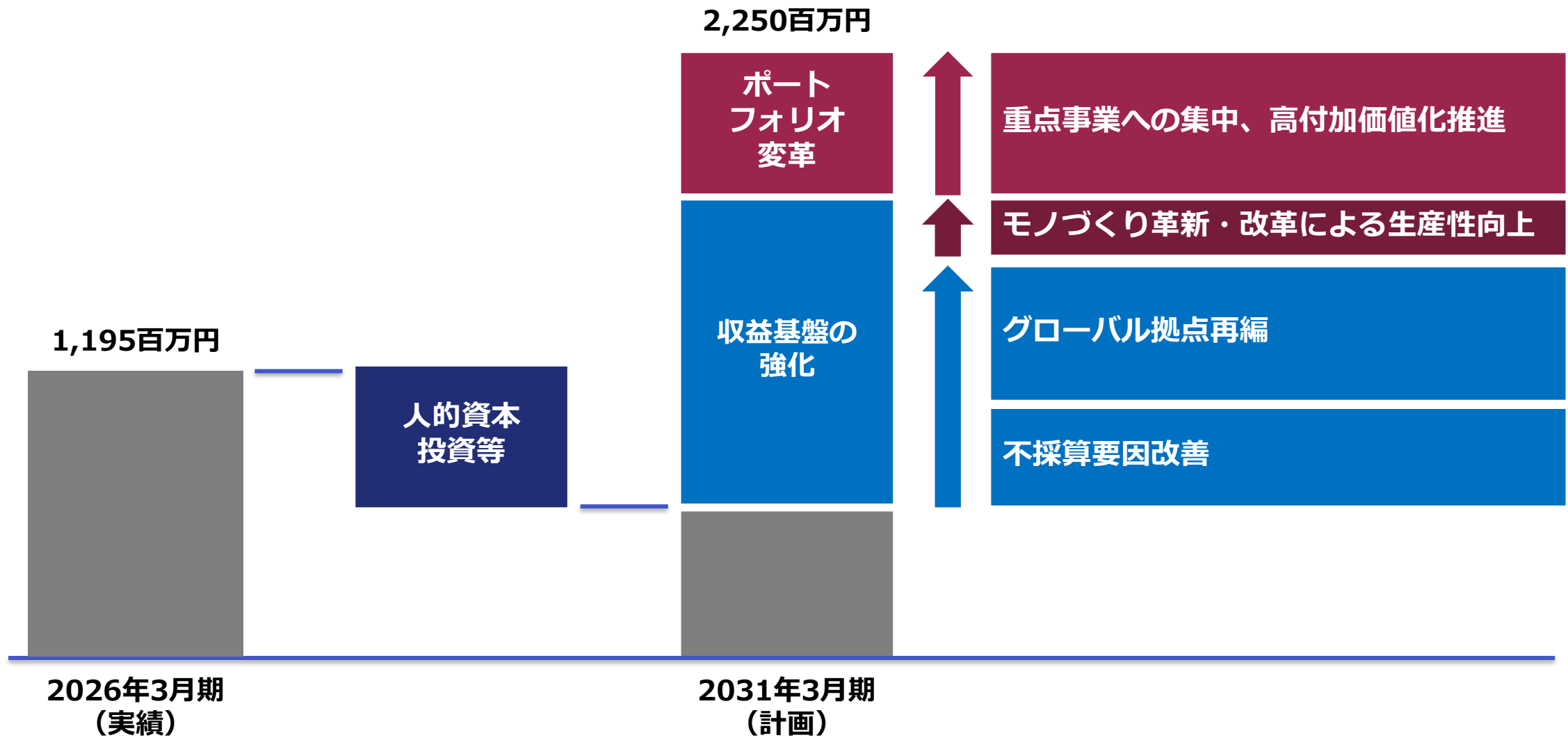
経営目標

(単位：百万円)



構造改革による収益基盤の強化とポートフォリオ変革の実現に向け、足元の基盤立て直しを最優先に推進し、利益率向上と運転資本最適化により 2031年3月期 ROE 8%を目指す。

経営目標（営業利益達成方策）



人的資本への投資および収益基盤の強化、ポートフォリオ変革を通じて、稼ぐ力を高める。

ロードマップ（構造の変革）

新5ヶ年中期経営計画

次期中期経営計画

2027年
3月期2028年
3月期2029年
3月期2030年
3月期2031年
3月期2036年
3月期

重点事業へのリソースの集中

領域拡大

持続的成長企業の実現

コア技術の進化・融合化

新規品リリース

アッセンブリー・ユニット・完成品 リリース

事業シナジー創出に向けたM&A検討

新市場・海外展開

成長事業
の本格稼働成長事業領域
の効率化

基盤立て直し

収益拡大

モノづくり革新・改革

未来Factory要素展開

革新ライン展開

グローバル拠点再編

海外子会社製品移管

国内寄せ停め(西拠点)

国内寄せ停め(東拠点)

不採算品対応

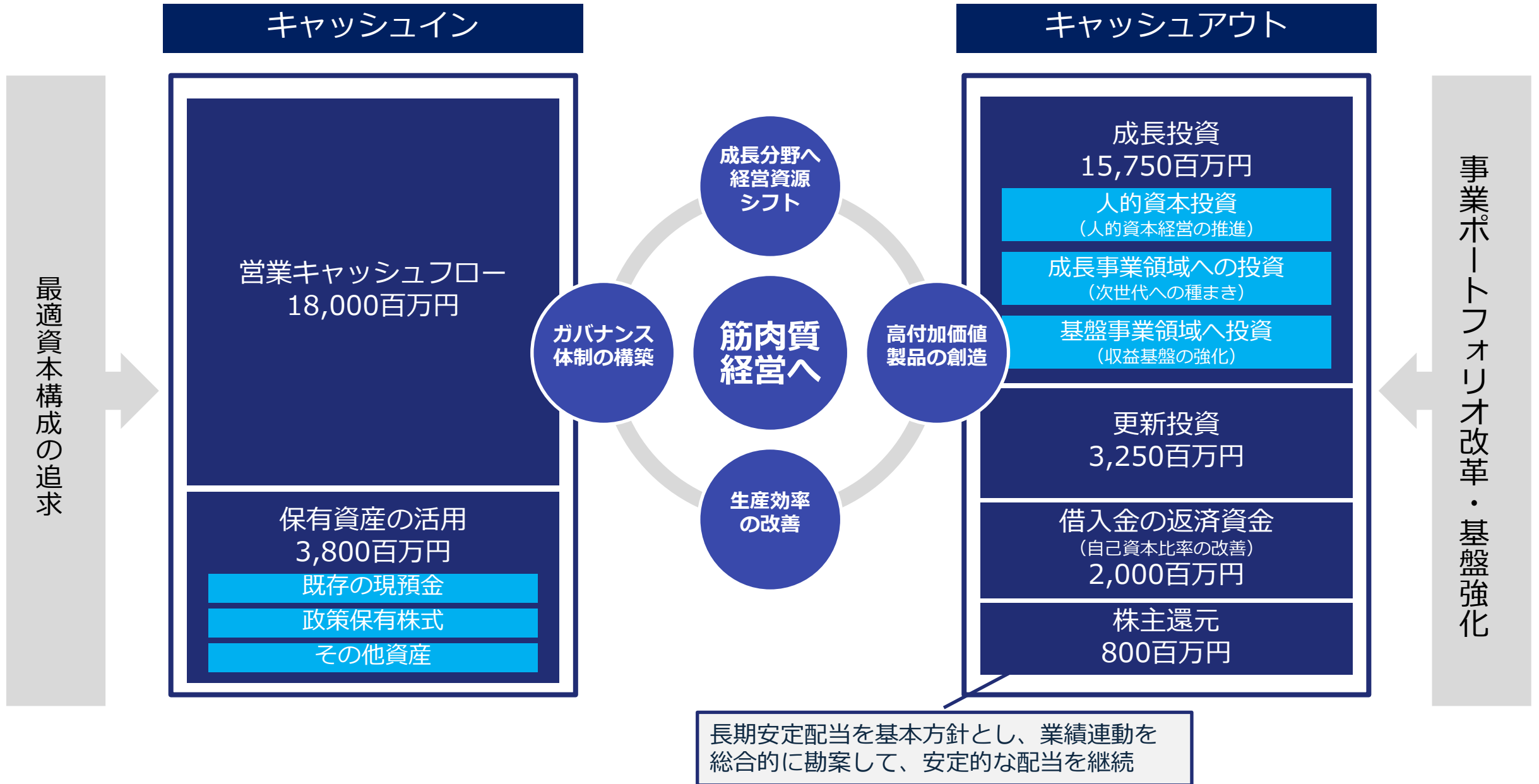
少量品番の削減・価格適正化

付加価値
製品の提供収益力の
持続的向上

現在進行中

ポート
フォリオ
変革収益基盤
の強化

投資計画と資本配分



免責事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本発表において提供される資料および情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの基準と異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

また、本資料に記載される情報に関して、これに誤りがあった場合や第三者によるデータの改竄等によって生じた障害に関し、事由の如何を問わず弊社は一切の責任を負うものではありません。

それらリスクや不確実性には、弊社に関連する業界ならびに市場の状況や、国内および国際的な経済状況および一般的な市場環境等の要因が含まれます。今後、新しい情報や将来の出来事等が起こった場合であっても、弊社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正等をおこなう義務を負うものではありません。

お問い合わせ先 (受付時間：8：00～17：00)
株式会社ファインシンター IR・資本戦略室
TEL：0568-88-4355 (代)
E-mail：fsirinfo@fine-sinter.com